

## 歯源性腫瘍、嚢胞の WHO 分類 (2017 年改訂) について

歯源性腫瘍の WHO 分類は、2005 年以來 12 年ぶりに 2017 年に改訂された。また、炎症性嚢胞および發育性嚢胞の分類も併せて規定された。本ページでは、歯科医師国家試験に関連する疾患を中心に、2017 年分類について記載する。なお、本書発行時点で、111 回歯科医師国家試験は新分類で出題されるのか、旧分類で出題されるのか、または新分類と旧分類の併記で出題されるのか、具体的なアナウンスはなされていない。

### 【良性歯源性腫瘍】

<b>良性上皮性歯源性腫瘍</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エナメル上皮腫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・エナメル上皮腫，単嚢胞型</li> <li>・エナメル上皮腫，骨外型／周辺型</li> <li>・転移性エナメル上皮腫</li> </ul> </li> <li>・扁平歯源性腫瘍</li> <li>・石灰化上皮性歯源性腫瘍</li> <li>・腺腫様歯源性腫瘍</li> </ul>
<b>良性上皮間葉混合性歯源性腫瘍</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エナメル上皮線維腫</li> <li>・原始性歯源性腫瘍</li> <li>・歯牙腫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯牙腫，集合型</li> <li>・歯牙腫，複雑型</li> </ul> </li> <li>・象牙質形成性幻影細胞腫</li> </ul>
<b>良性間葉性歯源性腫瘍</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯源性線維腫</li> <li>・歯源性粘液腫／歯源性粘液線維腫</li> <li>・セメント芽細胞腫</li> <li>・セメント質骨形成線維腫</li> </ul>

### 【炎症性嚢胞，發育性嚢胞】

<b>炎症性歯源性嚢胞</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯根嚢胞</li> <li>・炎症性傍側性嚢胞</li> </ul>
<b>歯源性ならびに非歯源性發育性嚢胞</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・含歯性嚢胞</li> <li>・歯源性角化嚢胞</li> <li>・側方性歯周嚢胞とブドウ状歯源性嚢胞</li> <li>・歯肉嚢胞</li> <li>・腺性歯源性嚢胞</li> <li>・石灰化歯源性嚢胞</li> <li>・正角化性歯源性嚢胞</li> <li>・鼻口蓋管嚢胞</li> </ul>

### 【いわゆる「骨関連病変」(一部)】

<b>線維骨性ならびに骨軟骨腫様病変</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨形成線維腫</li> <li>・家族性巨大型セメント質腫</li> <li>・線維性異形成症</li> <li>・セメント質骨性異形成症</li> <li>・骨軟骨腫</li> </ul>

### < 2005 年分類からの主な変更点 >

- ・2005 年分類では、良性歯源性腫瘍は、「歯源性上皮からなり、成熟した線維性間質を伴い、歯源性外胚葉性間葉組織を伴わない腫瘍」「歯源性上皮と歯源性外胚葉性間葉組織からなり、硬組織を伴うあるいは伴わない腫瘍」「間葉性あるいは歯源性外胚葉性間葉からなり、歯源性上皮を伴うあるいは伴わない腫瘍」「骨関連病変」の 4 つに分類されていたが、2007 年分類では「**良性上皮性歯源性腫瘍**」「**良性上皮間葉混合性歯源性腫瘍**」「**良性間葉性歯源性腫瘍**」の簡潔な 3 分類に改訂された。また「骨関連病変」とされていたものは、良性歯源性腫瘍からは独立して「**線維骨性ならびに骨軟骨腫様病変**」と規定された。
- ・2005 年分類の角化嚢胞性歯源性腫瘍は、2017 年分類では歯源性腫瘍から歯源性嚢胞に変更となり、「**歯源性角化嚢胞**」となった。
- ・2005 年分類の石灰化嚢胞性歯源性腫瘍は、2017 年分類では歯源性腫瘍から歯源性嚢胞に変更となり、「**石灰化歯源性嚢胞**」となった。
- ・2005 年分類で骨関連病変に分類されていた**骨形成線維腫**は、2017 年分類でも「**線維骨性ならびに骨軟骨腫様病変**」の項に分類されているが、これとは別に**良性間葉性歯源性腫瘍**として「**セメント質骨形成線維腫**」が新規に追加されている。